

# 環境教育「まず、今までできることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
編集者：代表幹事 高橋賢一  
連絡先：市民活動支援センター  
尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
(渋川福祉センター内)  
TEL 0561-51-2878



## 社説

発がん性が指摘される有機フッ素化合物(PFAS)による水の汚染が全国で相次ぐ。人の血液からも検出され、住民の不安は切迫だ。国や自治体は汚染源特定や拡散防止策を急がねばならない。

PFASは数千種類の化合物の総称で、調理用品や半導体製造など幅広く利用されてきた。長期保管された場合、がんや子どもの発育障害などの関連が指摘されている。

PFASは人体に蓄積した場合、がんや子どもの発育障害などを引き起こす可能性がある。PFASは冷蔵庫保存し、お早めにお飲みください。

## PFAS汚染

## 住民の不安に応えよ

り五〇ナノモル以下）を超えた。東京

米側に立ち入り調査などを求めるべきだ。自衛隊施設や空港、工場

PFASは地球規模の課題だ。

PFASは主に空港や基地が主要な汚染源ではなか

と指摘され、都内

PFASの健康影響の指標値がな

く、飲料水の暫定目標値も緩やかに設定されている。

日本には、欧米が定めるよう

定して拡散を抑えることが、住民

も調べる必要がある。汚染源を持

て任せにせず、行政が責任を持って

実施してはどうか。

周辺住民の血液検査も市民団体

任せにせず、行政が責任を持つ

て任せにせず、行政が責任を持つ

て任せにせず、行政が責任を持つ